

河村市長の本丸御殿本音トーク

日時:平成21年6月14日(日)14時~16時30分
場所:名古屋市公館 1階 レセプションホール

1 次第

- (1) 開会
- (2) 事業の概要説明(約30分)
- (3) トーク(約2時間)
- (4) 閉会

2 事業の概要説明(名古屋市説明資料)

- (1) 本丸御殿の価値
- (2) 本丸御殿復元の意義
- (3) これまでの経緯
- (4) 名古屋城跡全体整備計画
- (5) 工事スケジュール
- (6) 復元過程の公開
- (7) 障壁画復元模写
 - ・ 全体計画1,300面
 - ・ 平成20年度までに328面完成
- (8) 寄附の状況(平成21年5月末現在)
 - ・ 13,692件 41億8千2百万円余
- (9) 事業費
 - ・ 総事業費 150億円 工事費 130億円 復元模写等20億円
- (10) 財源
 - ・ 国・県補助金 50億円
 - ・ 寄付金(本丸) 50億円
 - ・ 寄付金(名城) 4億円
 - ・ 起債 10億円
 - ・ 市税 36億円
- (11) 利活用の計画
- (12) 経済波及効果
 - ア 復元事業による経済波及効果 約276億円
 - イ 入場者数増加による経済波及効果 約206億円/年
- (13) 中止・中断等の影響

意見書で寄せられた主な意見

【主な賛成意見】

- 復元によって、市民の誇りを取り戻すべき
- 天守と御殿は両方あってはじめて城といえる
- 復元により観光客が多く集まってくる
- 匠の技は、今、継承していかないと、技術を後世に伝えられない
- 工事を中断することにより、建設費の高騰につながる
- 福祉や医療と芸術文化を同一のテーブルで議論すべきではない

【主な反対意見】

- 御殿の復元より、福祉・医療・雇用対策等にかかる施策が優先するのではないか
- 復元建物には価値がなく、文化財にもならない
- 厳しい経済状況の時、市費を投入することはいったん中止すべき
- 国や県の補助金に頼らず、また市に過大な財政負担を強いることなく、寄附のみで復元すべき
- 将来の名古屋城をどうしていきたいのか、市民のコンセンサスがな